

6118 アイダエンジニアリング アウトパフォーム (新規)

18/3 期は会社予想若干増額見通しで 19/3 期は採算改善と M&A 効果もあり最高益更新へ

株価 1424 円 (1/5) 時価総額 1049 億円 (1/5) 発行済株 73647 千株 (1/5)

PER (18/3DO 予 16.7X) PBR (1.22X) 配当 30 円 配当利回り : 2.1%

要約

- ・ 1917 年創業のプレス專業大手で世界第 2 位の規模を誇る
- ・ 18/3 期上期は 3.0%増収、13.5%営業利益減と期初計画を下回るも受注は大幅増
- ・ 18/3 期は上期計画未達成も受注好調で通期修正せず、一部 M&A 効果もあり増額修正へ
- ・ 同社の強みが生きる製品群の成長が加速
- ・ 19/3 期は自動車産業の軽量化、EV 投資、好採算の受注拡大など中計前倒し達成期待
- ・ 株価は 18/3 期若干の増額修正で DO 予想 EPS85 円に対し機械平均 PER で 2090 円目標

1917 年創業のプレス專業大手で世界第 2 位の規模を誇る

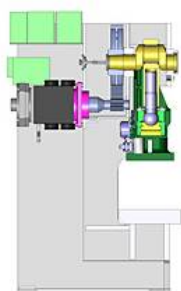
アイダエンジニアリングは、1917 年に会田陽啓が東京本所に会田鉄工所を創業したことに始まり、国産プレス機械メーカーの草分けとして製造を開始、戦後 1970 年より海外にも進出した。同社の成長を大きく変化させたのは 2002 年に世界に先駆けて

年	沿革
1917年	会田陽啓が「会田鉄工所」(東京本所)を創業
1933年	国産第1号機のナックルジョイントプレス完成
1951年	国産第1号機の王冠打抜自動プレス完成
1956年	国産第1号機の200トン高速自動プレス完成
1959年	神奈川県相模原市に工場新設(現・本社工場)
1960年	国産第1号機のトランスファープレス完成
1962年	東京証券取引所市場第2部に上場
1967年	世界最大級(当時)の2,500トントランスファープレス完成
1970年	社名をアイダエンジニアリング株式会社に変更
1971年	東京・大阪証券取引所市場第1部に昇格
1977年	スタンピングセンタシステム・マークIV(3次元トランスファ)完成
1995年	アメリカ、マレーシアに生産拠点設立
2002年	世界初のダイレクト駆動サーボプレス(現・ダイレクトサーボフォーマ)完成
2003年	精密成形機「ULシリーズ」完成
2015年	2,700トンの大型サーボプログレッシブプレス(世界最大級)を発表
2017年	創業100周年、日本ライアンス(株)及びその子会社(株)RASを子会社化

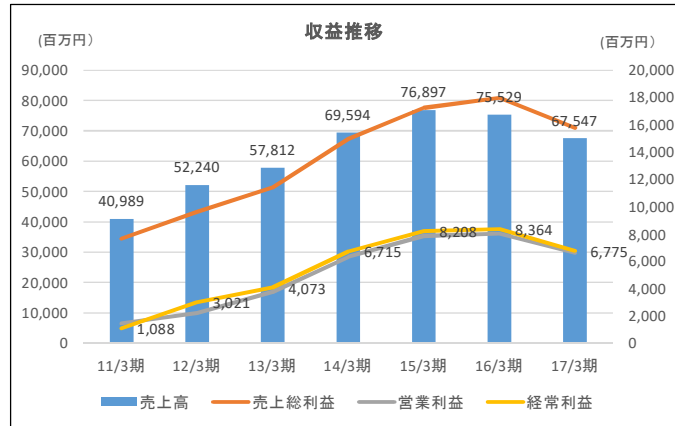
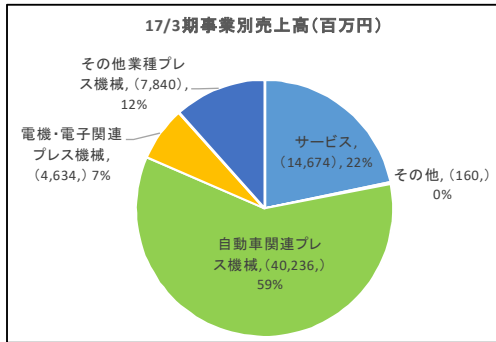
ダイレクトドライブ式サーボプレスを開発したこと。減速機なしでダイレクトに駆動が可能な「大容量・低速・高トルクサーボモータ」を独自技術で自社開発、高精度のプレス成型を可能としたサーボプレスの先駆者として世界からも注目を浴びることとなった。

サーボモータ直接駆動のAIDAダイレクトサーボフォーマ

大容量 低速・高トルク・ACサーボモータの外観

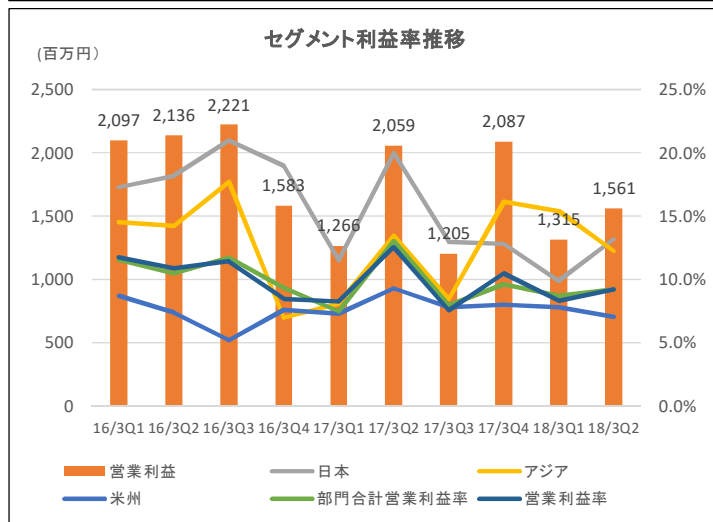
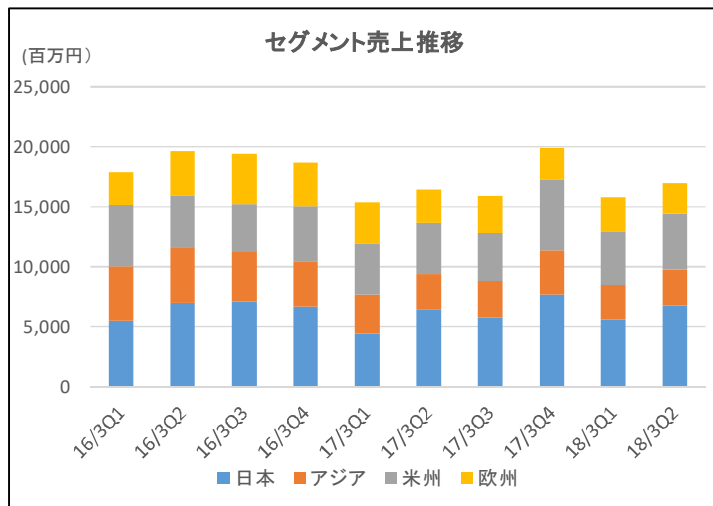


プレス機械総合メーカーとして昨年 2017 年 3 月に創業 100 年を迎えた。直前期、17/3 期売上高は 657 億円、経常利益 67.75 億円を誇り、ドイツのシュラー社に次ぐ、世界第 2 位の規模を誇る。

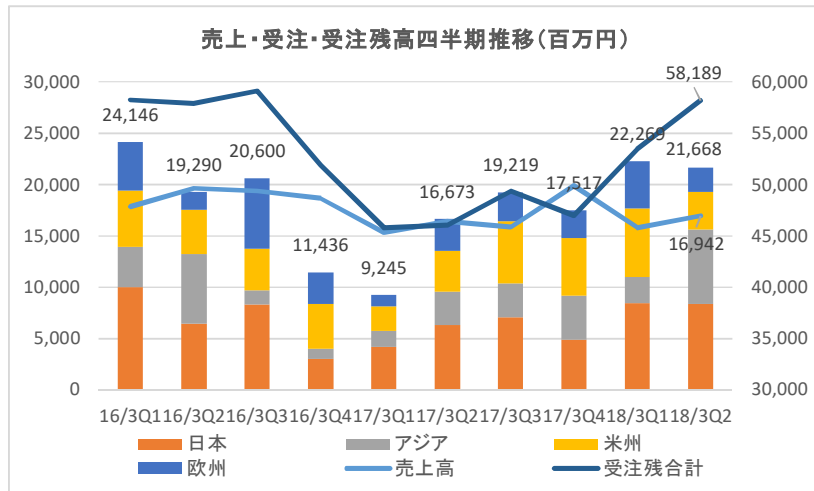


18/3 期上期は 3.0%増収、13.5%営業利益減と期初計画を下回るも受注は大幅増

18/3 期上期は売上高 327.34 億円 (3.0%増) 営業利益 28.76 億円 (13.5%減)、経常利益 28.34 億円 (21.0%減)、税引利益 19.50 億円 (24.9%減) となり、期初計画比売上高で 32.66 億円未達成、営業利益で 6.24 億円、経常利益で 7.66 億円、税引利益で 5.50 億円下回った。地域別売上では日米向けは堅調に推移したものの、欧州向けはジャガーUK 向け大口が剥落、アジア向けもセグメント内向け売上高は増加したものの、外部売上では減少したことなどによる。利益面では売上実績を優先した案件や日米向けでトランスファーマシンが売上増となったこと、自動機の改善コスト、マレーシア向けで一部評価損の計上があったこと、新製品開発費増などのために増収減益を余儀なくされた。



但し、受注状況を見ると状況は全く異なる。上期受注は439.37億円(69.5%増)と、日本鍛圧機械工業会の同期比24.3%増を大きく上回る伸びに。中でもアジア向けは2.0倍の98.00億円と伸



Q2だけでも216.68億円(30%増)、この中には中国EV自動車ベンチャーのフューチャーモビリティ(FMS)向け車体外板用プレスライン40億円など、アジア向け71.91億円(前年同期比2.2倍)などが含まれ、受注残は9月末で26.4%増の581.89億円に達している。

18/3期は上期計画未達成も受注好調で通期修正せず、一部M&A効果もあり増額修正へ

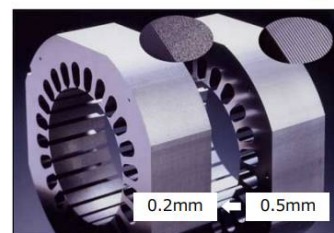
上期で収益計画未達成も、18/3期会社業績予想は変更していない。これは豊富な受注残高があることに加えて、工事進行基準で上期に計上できなかった案件なども加わるため。利益面では好採算のサーボプレスや板鍛造などが拡大、加えてプロセス制御装置等の設計・販売を手掛ける日本リライアンス(今期通期で売上高60億円、経常利益2億円予想)についてQ4分計上されること(通期予想に未反映)で若干の増額修正が期待できる。

同社の強みが生きる製品群の成長が加速

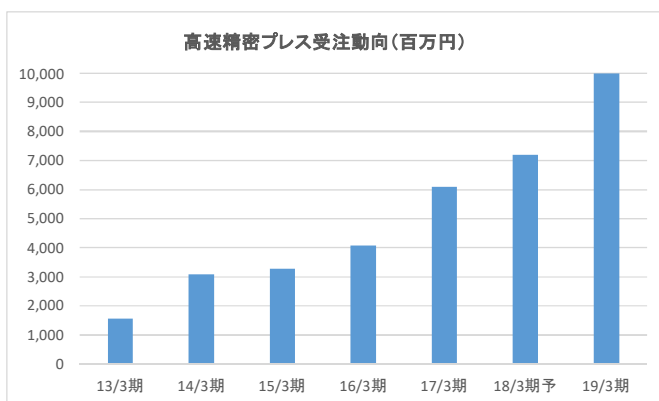
同社は高速精密プレス分野で高いシェアを持つが、EVなどで用いられるモーター加工用の中・大型高速精密プレス機の需要が高まっている。2002年にMSP(マルチサスペンションプレス)として開発して以来、モーターコア用では国内シェア70%を有するが、ここに来てEV用に加えて大手産業用ロボットメーカー向けロボット用モーターなどにも需要が拡大している。特にEVなど、モーターコアのサイズが大型化、一方では薄型積層化しており、300t以上の型締力が求められており、同業の山田ドビー、日本電産系のキョーリなどは小型機中心のため、同社の優位性がさらに増している。現状、三井ハイテックが2019年に岐阜県にモーターコアの新工場を建設、黒田精工もテスラモーター向



MSP-3000



けなどで増産意向、ホンダも日立オートモティブと中国でEVモーター生産を進めるなどの動きがある。同社は今後の受注増に対応、津久井製作所での生産能力を1.5倍に引き上げる。またEV推進を加速させている中国での生産も検討しており、早晩、年産100億円超の規模が実現しよう。



サーボプレスは機械プレス的一种であるが、フライホイールを介さずに、スライドをサーボモータで駆動するプレス機械であり、特殊なスライドモーション制御や加圧回数、精緻な温度管理が可能で、様々な材料加工に適合でき、自動車業界での材料変化が追い風になっている。

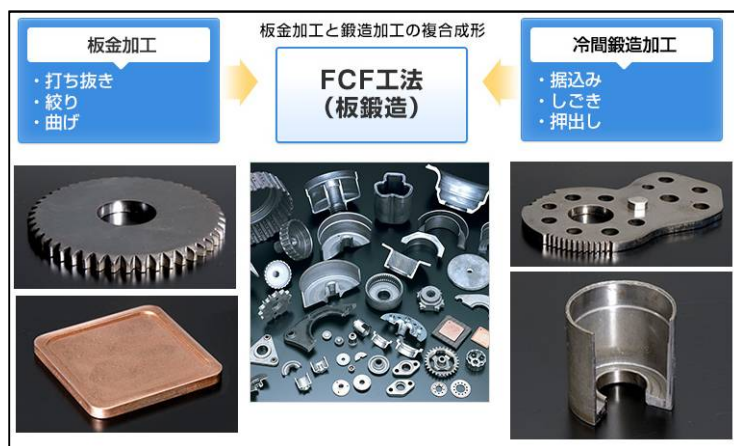
特に近年、軽量化による低燃費化が進展、アルミニウム材やハイテン材加工が求められる他、安全対策強化でも需要が拡大している。とりわけ柔らか



かいが伸びにくく破断し易く、傷つきやすいアルミニウム材（主に欧州メーカーが好む）、一段の硬度化が進むハイテン材（日系メーカーが好む）のニーズが高まり、精密制御が可能なサーボプレスが必要となっている。

さらに同社は加工法として板鍛造（FCF）の進化にも注力している。プレス機による塑性加工の発展過程では、板材を素材として部品を成形する「板金加工」と、丸棒切断の円柱状

素材から部品成形する「鍛造加工」の、2つの異なる加工法でものづくりがおこなわれてきた。しかし近年、部品の高精度化、高機能化に伴い、1つの加工法では対応困難な部品が増え、「板金加工」と「鍛造加工」を組み合わせ、両者の技術の利点を活用する工法として日本発の技術



として開発が進んだのが板鍛造である。冷間鍛造は肉厚部品を高精度に成形でき、一方、板金加工は板状のコイル材を使って複雑形状の部品を安く造れるため、板鍛造を使えば、複雑形状の肉厚部品を高精度かつ低コストで加工できる。従来は電機製品の小物精密部品などに用途が限定されていたが、ここにきて要素技術が進化、自動車用サイレントチェーンや無段変速機の独楽、燃料電池車用セパレータなどでの成型も可能となり、ニーズが高まっている。板鍛造の最大の魅力は大幅なコスト削減であり、金属製部品の製造コストを従来比3割、切削品比5割以上のコスト削減を実現できるとされる。同社は板鍛造に適した「金型精度より高い精度の成形マシン」として、バラツキが数ミクロン以下という動的精度の高さを実現した高精度・高剛性プレス「ULシリーズ」を投入、金型寿命を格段に長寿命化することもあり、収益性も総利益率で35%程度と非常に高い機械となっている。現状、20億円程度の売上規模と推定されるが、新シリーズ投入もあり、今後の伸びが期待される。

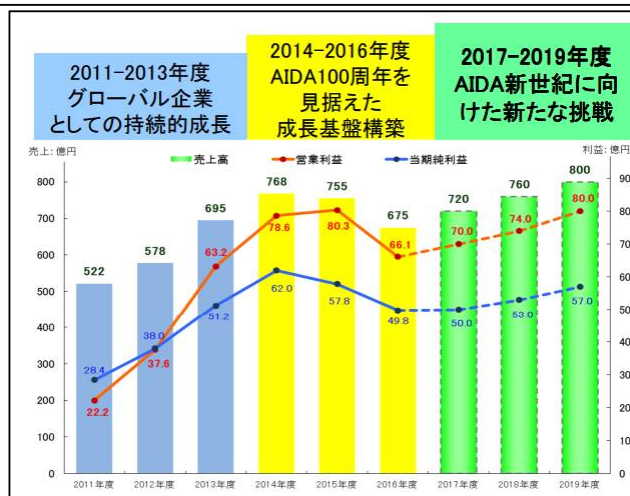
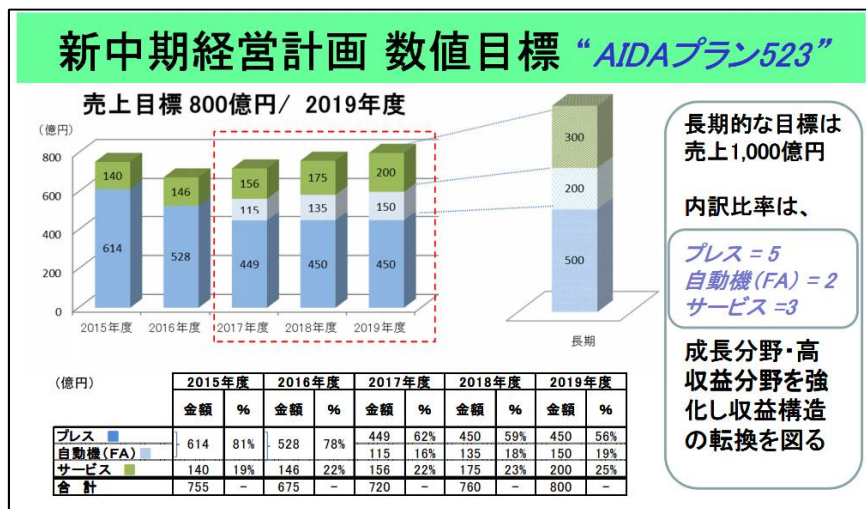
このように同社の強みを持つ製品群は自動車のEV化や軽量化などで重要な位置を占め、しかも採算性も良好なことから、同社の収益力向上に寄与するものとみられる。

19/3期は自動車産業の軽量化、EV投資、好採算の受注拡大など中計前倒し達成期待

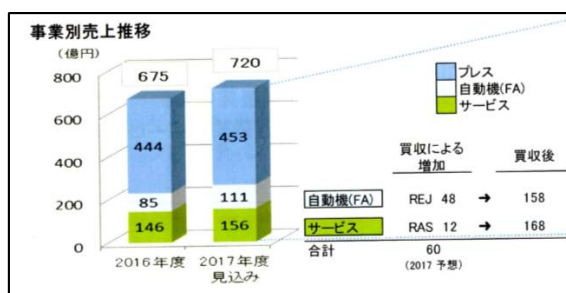
19/3期は豊富な受注残高に加え、需要の80%を占める自動車産業が軽量化、EV・電動化、高機能化投資を進めている中で、同社の収益性が高い機械の構成比がアップする見通しで、

収益は順調な拡大が見込まれる。加えて買収した日本リライアンスがフル連結され売上高で60億円程度上乗せされ、シナジー効果も期待される。

同社は昨年5月に、中期経営計画として“AIDAプラン523”を策定、19/3期は売上高760億円、営業利益74億円を計画しているが、少なくともM&A効果だけで売上



高 820 億円、営業利益 76 億円と、売上高では中計予想が 1 年前倒し達成となろう。実際には従来予想が増額される分を含めて、利益面でも 20/3 期予想の前倒し達成とともに最高益更新が見込める。



株価は 18/3 期若干の増額修正で DO 予想 EPS85 円に対し機械平均 PER で 2090 円目標

株価はプレス機械受注の好調を背景に上昇してきたが、現状、会社予想 EPS81.04 円に対して 17.6 倍水準と、機械平均 PER24.6 倍に対して割安感がある。しかも M&A 効果や本業の若干の上方修正含みで、当面 18/3 期 DO 予想 EPS85 円に対し、機械平均 PER 水準の 2090 円を目標とする。19/3 期は豊富な受注残の消化促進に加え、日本リライアンスの通年寄与もあり会社中計予想を達成し過去最高益を更新しよう。中期的にも EV 向けなど収益性の高い製品売上の寄与拡大も見込まれ、19/3 期 DO 予想 EPS100 円に対して 24.6 倍水準の 2460 円を中期目標とする。

アイダエンジニアリング(6118)	(百万円、円)									
	売上高	増減率	営業利益	増減率	経常利益	増減率	税引利益	増減率	EPS	配当
16/3期	75,529	-1.8%	8,037	2.2%	8,364	1.9%	5,782	-6.8%	93.78	30.00
17/3Q1	15,338	-14.1%	1,266	-39.6%	1,378	-41.3%	988	-35.7%	16.03	0.00
17/3Q2	16,430	-16.2%	2,059	-3.6%	2,209	-18.4%	1,608	-13.1%	26.07	0.00
17/3Q3	15,882	-18.1%	1,205	-45.7%	1,207	-35.9%	814	-38.3%	34.23	0.00
17/3Q4	19,897	6.6%	2,087	31.8%	1,981	39.0%	1,575	46.4%	4.49	40.00
17/3H1	31,768	-15.2%	3,325	-21.5%	3,587	-29.0%	2,596	-23.3%	42.10	0.00
17/3H2	35,779	-6.0%	3,292	-13.5%	3,188	-3.7%	2,389	-0.3%	38.72	40.00
17/3期	67,547	-10.6%	6,617	-17.7%	6,775	-19.0%	4,985	-13.8%	80.82	40.00
18/3Q1	15,792	3.0%	1,315	3.9%	1,259	-8.6%	977	-1.1%	15.84	0.00
18/3Q2予(8/8)	20,208	23.0%	2,185	6.1%	2,341	6.0%	1,523	-5.3%	24.68	0.00
18/3Q2	16,942	3.1%	1,561	-24.2%	1,575	-28.7%	973	-39.5%	15.77	0.00
18/3H1期初会予	36,000	13.3%	3,500	5.3%	3,600	0.3%	2,500	-3.7%	40.52	0.00
18/3H1	32,734	3.0%	2,876	-13.5%	2,834	-21.0%	1,950	-24.9%	31.61	30.00
18/3H2期初会予	36,000	0.6%	3,500	6.3%	3,500	9.8%	2,500	4.6%	40.52	30.00
18/3H2会修正予	39,266	9.7%	4,124	25.3%	4,266	33.8%	3,050	27.7%	49.43	30.00
18/3期会予	72,000	6.6%	7,000	5.8%	7,100	4.8%	5,000	0.3%	81.04	30.00
19/3期会予(中計)	78,000	5.6%	7,400	5.7%	7,500	5.6%	5,300	6.0%	85.90	
20/3期会予(中計)	80,000	5.3%	8,000	8.1%	8,100	8.0%	5,700	7.5%	92.38	
18/3H2DO予	41,266	15.3%	4,424	34.4%	4,566	43.2%	3,300	38.1%	53.48	30.00
18/3期DO予	74,000	9.6%	7,300	10.3%	7,400	9.2%	5,250	5.3%	85.09	30.00
19/3H1DO予	40,000	22.2%	4,150	44.3%	4,150	46.4%	2,900	48.7%	47.00	0.00
19/3H2DO予	43,000	4.2%	4,550	2.8%	4,650	1.8%	3,300	0.0%	53.48	35.00
19/3期DO予	83,000	12.2%	8,700	19.2%	8,800	18.9%	6,200	18.1%	100.48	35.00
20/3期DO予	89,000	7.2%	9,500	9.2%	9,600	9.1%	6,800	9.7%	110.20	38.00

年度	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期 会予	19/3期会 予	20/3期会 予	18/3期 DO予	19/3期 DO予	20/3期 DO予
売上高	76,897	75,529	67,547	72,000	76,000	80,000	74,000	83,000	89,000
売上原価	59,650	57,544	51,761	55,600			57,200	64,200	68,900
売上総利益	17,246	17,985	15,785	16,400			16,800	18,800	20,100
販管費	9,383	9,947	9,168	9,400			9,500	10,000	10,600
営業利益	7,863	8,037	6,617	7,000	7,400	8,000	7,300	8,800	9,500
経常利益	8,208	8,364	6,775	7,100	7,500	8,100	7,400	8,900	9,600
親株主帰属純利益	6,205	5,782	4,985	5,000	5,300	5,700	5,250	6,300	6,800
セグメント売上情報年度	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期 会予	19/3期会 予	20/3期会 予	18/3期 DO予	19/3期 DO予	20/3期 DO予
プレス機械	62,893	61,234	52,711	56,200	58,300	59,800	57,900	63,800	66,500
(プレス機)				44,700	44,800	44,800	45,100	45,800	47,000
((内高速精密プレス))	3,270	4,080	6,100	7,200	10,000		7,200	10,000	11,500
(自動機)				11,500	13,500	15,000	12,600	18,000	19,500
サービス	13,803	14,072	14,674	15,600	17,500	20,000	15,900	19,000	22,300
その他	199	222	160	200	200	200	200	200	200
合計	76,897	75,529	67,547	72,000	76,000	80,000	74,000	83,000	89,000
受注合計	70,254	75,472	62,654	74,000			79,000	85,000	90,000

株価推移

